

# Rubus x Paxii Focke (Rosaceae) Occurs in Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00055611">https://doi.org/10.24517/00055611</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



○ 鳴橋直弘：キイチゴ属の一雑種 *Rubus* × *Paxii* が日本で見つかる Naohiro Naruhashi: *Rubus* × *Paxii* Focke (Rosaceae) Occurs in Japan

1995年7月19日、院生の橋本勝明君と長野県木曾郡王滝村滝越標高1000mの三浦ダム付近でキソキイチゴの果実を探していたとき、*Rubus* × *Paxii* を発見した。道路横の崩壊地で、オヒョウニレ、チドリノキ、トチノキ、ヌルデ、ノイバラ、ニワトコ、ウド、イタドリ、ヤマヨモギ、アカソなどが生育し、そこにはエビガライチゴ、クマイチゴ、クロイチゴ、ミヤマウラジロイチゴが見られた。エビガライチゴとミヤマウラジロイチゴはちょうど開花中であった。この三浦の谷にはキソキイチゴ、バライチゴ、ミヤマモミジイチゴ、ハスノハイチゴ、モミジイチゴが生育している。この植物はヨーロッパ産のエゾキイチゴ (*R. idaeus* L.) とエビガライチゴ (*R. phoenicolasius* Maxim.) の雑種である。J. H. Wilson が1906年に発表したらしいが、記載はFocke (1908) によってなされた。タイプ標本は、C. Baenitz 採集のドイツのシュレーゼン州のBreslau王立植物園栽培のものである。ドイツのベルリンのものがホロタイプで、オランダのライデンにあるのがアイソタイプであろう。いずれの標本もエゾキイチゴとエビガライチゴの中間型である。この雑種にまだ和名がないので、両親種から合成したエゾエビガライチゴを提唱する。Focke (1911) によれば、エゾエビガライチゴは、ヨーロッパの庭園の栽培下で起原した雑種で、外観と帯紫色の腺毛の毛状物はエビガライチゴと同じである。しかし、相違点として、小葉がしばしば5枚からなる羽状複葉となり、細長く、葉縁の鋸歯はあまり深くはない。小葉は一般に鋭先であるが、単葉の場合は時として鈍頭との中間形となる。花卉や花糸の基部は帯桃色～淡白色である。密に細綿毛がある子房は、まれにしか成熟しない。花粉は不稔が多い。

我々の見た王滝村のエゾエビガライチゴの外観は、一見すれば両親の中間型である (Fig. 1.) 参照。茎は紫褐色～褐色で、部分的に緑色、トゲは多いが剛毛と腺毛はエビガライチゴに比べ、はるかに少ない。初年茎の葉は5枚からなる羽状複葉で、頂小葉はエビガライチゴのように2枚の側小葉より非常に大きいということはない。葉裏は白色～緑色で、葉質は非常に薄く、大きい葉は葉柄も含め27cmにもなる。花茎の葉は羽状複葉と3出複葉が混ざり、3出の場合エビガライチゴのように頂小葉が側小葉よりも大きくなる。花序はエゾキイチゴのように散房状である。花卉は広卵形～円形で、エビガライチゴのようであるが、ほとんど白色である。乾燥した標本では少し赤味を帯びるので、条件によってはエビガライチゴのように桃色も考えられる。ガク片の外側はエビガライチゴに似るも、腺毛の数は少ない。種小名の *Paxii* は、Breslau 王立植物園で最初に発見されたことと、Baenitz の勧めにもより、当時の植物園の園長の Pax に捧げられたものである。

大井次三郎 (Ohwi 1949) は、1949年にミヤマウラジロイチゴ (*R. yabei* Lévl. et Vnt. = *R. idaeus* L. var. *yabei* Koidz.) とエビガライチゴの雑種としてノリクラキイチゴを記載発表した。タイプは岐阜県の乗鞍岳産田代善太郎採集品 (博物館標本番号34809) で国立科学博物館に収納されている。このノリクラキイチゴは、乗鞍岳および周辺には産地が少なくないこと、どの個体や集団も正常に結実すること、腺毛以外ミヤマウラジロイチゴと区別し難いこと、などからエビガライチゴの形質がなんら入っていないと思われ、筆者は雑種ではなく、ミヤマウラジロイチゴの一多腺毛型と考えている。

王滝村のエゾエビガライチゴは2株しかなく、たぶん栄養繁殖力は弱いものと思われる。いったん雑種ができる両親よりも旺盛にはびこるタイプではなく、F1雑種止まりであり、また、短命と推定され、そのため今まで発見されなかったものと思われる。

発見時は開花中であったが、個体数は少なく十分な標本や研究のための資料を採集することが出来なかった。調査は今後になる。エゾエビガライチゴは、Focke の報告と標本を見て以来、気に掛けて探していたものが見つかり、その喜びも大きく、今回ここに報告させていただく。

証拠標本 Loc.: Takikoshi 1000 m alt., Ohtaki-mura, Kiso-gun, Nagano Pref., Japan. Date: July 19, 1995. Coll.: N. Naruhashi and K. Hashimoto no. 95071902 (specimen in KANA, KYO, MAK, TI).

最後に、ドイツ文の訳でベルリン・ダーレム植物園のハッキ博士にお世話になった。厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

- Focke, W.O. 1908. Verschiedenblättrigkeit bei einer Himbeerkreuzung (*Rubus* × *Paxii*). Abh. Nat. Ver. Bremen 19 (Heft 2): 204-206.  
 Focke, W.O. 1911. Species Ruborum. Bibliot. Bot. Heft 72: 192.  
 Ohwi, J. 1949. Notes on some plants from the Far-East. Bull. Nat. Sci. Mus. 26: 11.

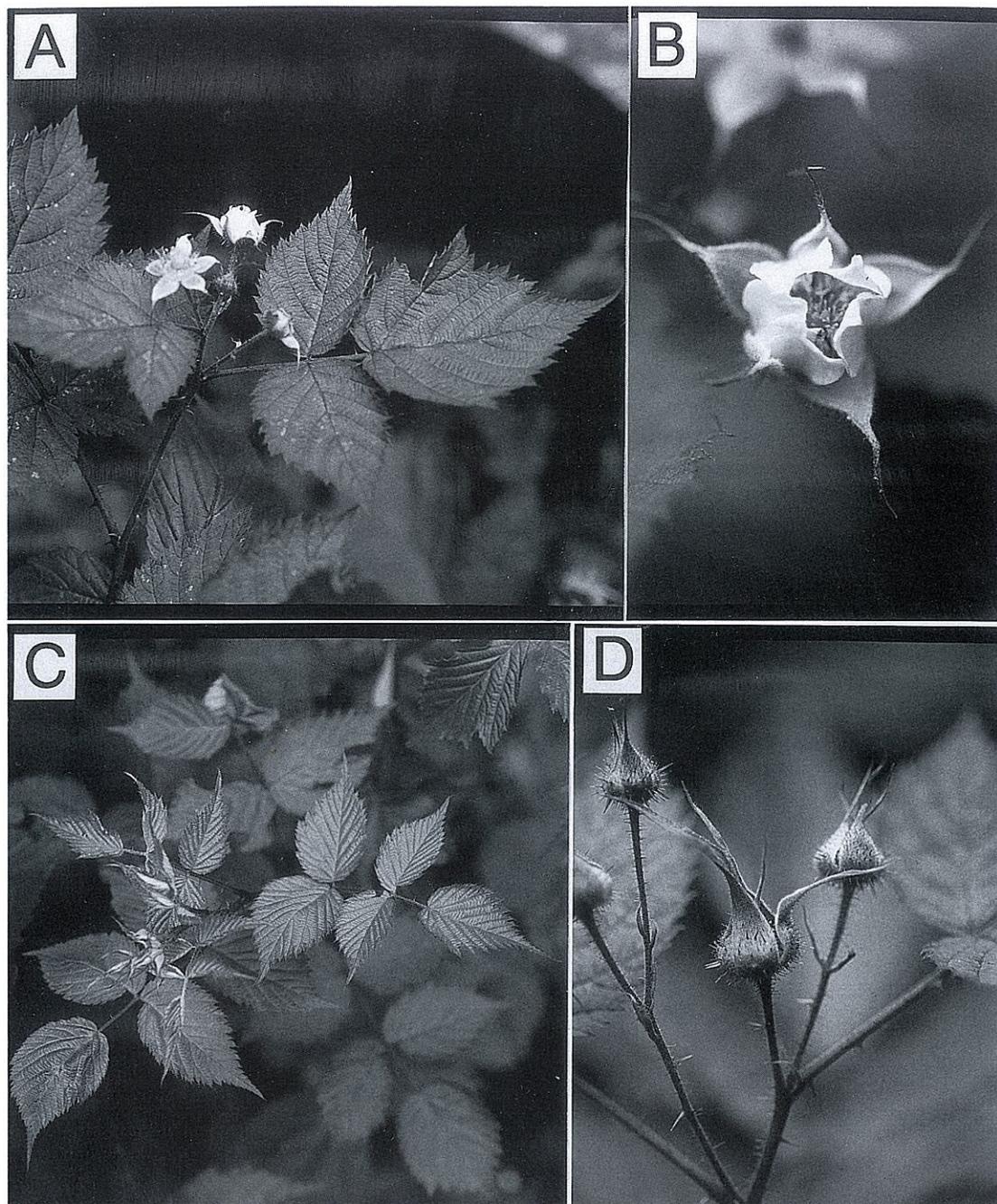


Fig. 1. *Rubus*  $\times$  *Paxii* Focke growing in Ohtaki-mura, Kiso-gun, Nagano Prefecture, Japan. A: Flowering branch; B: Front view of flower with 5 white petals; C: Primocane with 5-leaflet pinnate leaves; D: Inflorescence and hair-covering.

(\* 〒930 富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科 Department of Biology, Faculty of Science, Toyama University. Gofuku 3190, Toyama 930, Japan)